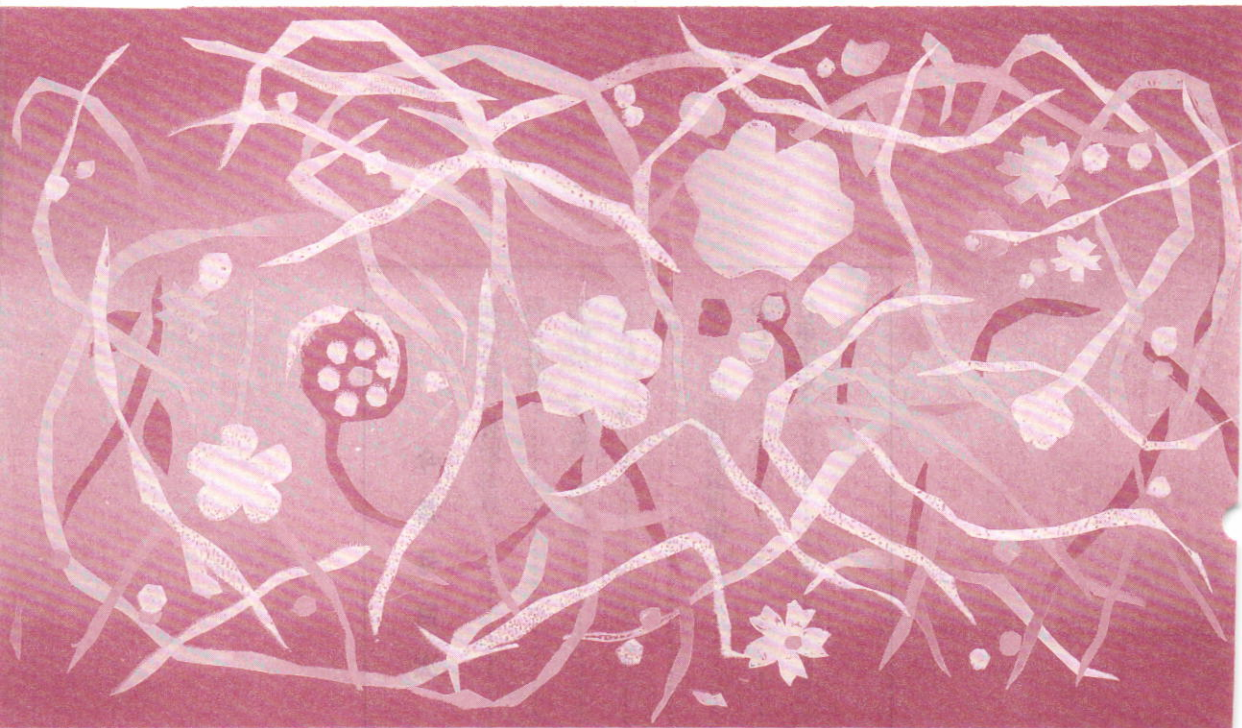


料練成綴り



Hobon Teurutan



平成 **16** 年 **385** 号

今月号目次

| | |
|------------------|---|
| 顧問会員・賛助会員..... | 2 |
| 職員名簿..... | 3 |
| 元朝祭・「宝積」の心で..... | 4 |
| 文化祭..... | 5 |
| レポート..... | 7 |
| 第三一回全国大会出場..... | 8 |
| おしらせ..... | 9 |
| 行事予定..... | 9 |



鶴谷
登画

北北川桂奥奥荻岡大大太尾浦字稲ア
 村野谷井畑村布山橋橋田間田野尾
 洋服呉淳哲庫産寿庄花生花安義次
 子弘店子榮也(株)商望司店央基知郎
 様様様様様様様様様様様様様様様様

賛助会員
 (願不同)

伏立廣塩塩佐飯
 木山田谷谷武田
 海アル裕雄建俊富
 陸ルミ一一(株)作子
 送(株)一
 様様様様様様

顧問会員
 (願不同)

職員名簿

| | | | |
|-----------|------------|-------|-------|
| 北村良成 | 藤田あさ子 | 山崎孝之 | 大川英一 |
| こしむら百味堂 | 普奈木清二 | 山崎貞夫 | 田中昌子 |
| 国谷伸五 | 細正園 | 牧野貞夫 | 田中昌子 |
| 駒野ヒロ子 | 北陸日本海油送株 | 鶴谷登 | 松田和子 |
| 三宝流通株式会社 | 北陸銀行伏木支店 | 野田武 | 樋口静子 |
| J A 伏木信用 | 伏木食品 | 網谷信夫 | 牧野佳子 |
| 志摩まち | 船木正輝 | 福島正之 | 山崎吏永子 |
| 嶋村千代松 | 船木正徳 | 網谷信夫 | 山田尚子 |
| 白崎幸子 | 堀田善十郎 | 福島正之 | 山田尚子 |
| 城口恵美子 | 馬瀬洋 | 松島司 | 山田尚子 |
| 新光硝子工業(株) | 宮森勇 | 松田達 | 山田尚子 |
| セムプリンティング | 松田薫 | 駒野松也 | 山田尚子 |
| 高林恵美子 | 松原みつゐ | 吉野優美子 | 山田尚子 |
| 立野二朗 | 牧野謙一 | 吉野優美子 | 山田尚子 |
| 谷口鈴枝 | 水戸節子 | 平山直人 | 山田尚子 |
| 土肥貞子 | モカ洋菓子店 | 田中利満 | 山田尚子 |
| 東亜合成株式会社 | 本林一己 | 米田一毅 | 山田尚子 |
| トウカイ(有) | 森下たゞ子 | 谷内信行 | 山田尚子 |
| 東光運輸 | 山下和夫 | 村井光子 | 山田尚子 |
| 戸沢克行 | ヤマ自動車(株) | 平山秀雄 | 山田尚子 |
| 中尾正 | 山本建設(株) | 高木清吉 | 山田尚子 |
| 日本海産業(株) | 山口とみ子 | 一宮健治 | 山田尚子 |
| 能沢保 | 吉沢運送(株) | 宮森恵都子 | 山田尚子 |
| 野田郁 | 吉田隆明 | 谷内祥訓 | 山田尚子 |
| 羽柴勲 | 淀川ランドリー(株) | 普奈木清二 | 山田尚子 |
| 早木工業株式会社 | 米山徹昭 | 京谷英一 | 山田尚子 |
| 水見伏木信用金庫 | 米山しげ子 | 能沢節子 | 山田尚子 |
| 伏木燃商株式会社 | 麗光堂 | 国谷洋子 | 山田尚子 |
| 伏木ポートサービス | ワカノ電工(株) | 西海明美 | 山田尚子 |
| 富士電子株式会社 | 渡辺守人 | 鶴谷三雄 | 山田尚子 |
| 藤田重一 | | 中波俊則 | 山田尚子 |

元朝祭

年頭の挨拶

皆様明けましておめでとうございませう。昨年はイラク戦争、世界各地のテロと悲惨な出来事が多くありました。

一方、日本国においても、経済的に厳しい年でしたが、鍊成館活動は皆様の暖かいご協力で活動することができ、なによりと喜んでおります。

バトン教室は今年も全国大会六回目の出場を決め、富山県、高岡市から激励して頂きました。館活動も今年三十八周年を迎えます。職員各位の熱意ある活動が今日の活動継続につながっております。

青少年問題が深刻な社会現象となつている今、戦後教育の見なおしが叫ばれております。愛国心、国旗、国歌の存在を認めない教育方針は間違つておりませう。

鍊成館では国を愛する心、日

平成十六年一月一日
午前十時 鍊成館道場

理事長 山崎 孝之

本のおき心を館活動にとり入れております。

今年、私の年賀状に「楽業偕悦」と書かせて頂きました。「みんなで目的を達成して、みんな喜び合いましよう」という意味です。今年一年、そういう気持ちで頑張りましょう。



「宝積」の心で

理事長 野田 武

昨年末、母が永眠しましたので、年始の挨拶はご遠慮申し上げているところですが、年頭にあたり、標記の言葉を紹介したいと思ひます。

出典はあきらかではありませぬが、「人に尽くして、報酬を求めない心」を意味します。

同じようなことを、有名な書家、相田みつをさんが、次のような詩を書いておられます。

のに

あんなに世話を

してやったのに

ろくなあいさつも無い

あんなに親切に

してあげたのに

あんな一所懸命

つくしたのに

のに

のに

のに

のに

へのに〜が出たときはぐちこつちにへのに〜がつくと

むこうは「恩に着せやがってー」と思う

庭の水仙が咲き始めました

水仙は人に見せようと思つて

咲くわけじゃないんだな

ただ咲くだけ

ただひたすら

人が見ようが見まいが

そんなことはおかまいなし

ただ いのちいっぱい

自分の花を咲かすだけ

自分の花を

花は ただ咲くんです

それをとやかく言うのは人間

ただ ただ ただ

それで全部

それでおしまい

それっきり

人間のように

へのに〜なんてぐちは

ひとつも 言わない

だから 純粹で

美しいんです。

新年にあたり、心洗われる詩

に出会いました。